

由は別記を参照して下さい。

浅田賞受賞記念特別講演会

表彰式に続いて浅田賞受賞記念講演が開催された。講演の内容は後日「鉄と鋼」誌に掲載されます。

(1)「高性能板材圧延機の開発」

(株)日立製作所日立工場技師長 梶原 利幸君

(2)「金属中の極微量成分元素の分離定量」

東京理科大学工学部教授 水池 敦君

第 120 回 (秋季) 講演大会・関連行事 報告

第 120 回講演大会は平成 2 年 9 月 25 日(火)~27 日(木)東北大学教養部で 20 会場を使用し開催された。

講演大会

近年の鉄鋼技術の高度化、多様化、さらには領域の拡大を反映して、講演大会における発表論文もますます専門化、広範化してきた。このためより活発な討論が行われるよう、従来の部門が一部変更された。変更部門は次のとおりである。

- ・萌芽・境界領域のうち、熔融金属を扱うプロセスを、“高温物理化学・プロセス”に分離独立した。

- ・“計測・制御・システム技術”を加工部門から分離独立した。

- ・分析・表面処理をそれぞれ“分析評価・解析技術”および“表面技術”に分離した。

今講演大会の部門別講演件数は次のとおりであった。

①高温物理化学・プロセス：41 件	②製鉄：92 件
③製鉄・製鋼共通：21 件	④製鋼：126 件
小計 280 件	

⑤計測・システム技術：42 件	⑥評価・解析技術：18 件
⑦加工・利用技術：159 件	⑧表面技術：62 件
⑨萌芽・境界領域：106 件	小計 387 件

⑩材料の組織・性質：237 件	小計 237 件
(合計 904 件)	

討論会

討論会は次の 6 テーマ（講演件数 56 件）により開催され、いずれも活発な討論が行われた。

①「焼結プロセスの物理的・化学的制御による焼結鉍の歩留り向上技術」

座 長 小幡 昊志 (川鉄)

講演件数-7, 9 月 26 日 13:00~17:30

②「連铸鑄型内の溶鋼流動とその制御技術」

座 長 溝口 庄三 (新日鉄)

副座長 宮原 忍 (NKK)

講演件数-7, 9 月 26 日 13:00~17:40

③「鉄鋼製品の表面疵検査技術」

座 長 永沼 洋一 (新日鉄)

講演件数-6, 9 月 27 日 9:00~14:30

④「極低炭素薄鋼板材料における最近の進歩」

座 長 高橋 政司 (住金)

副座長 秋末 治 (新日鉄)

講演件数-13, 9 月 27 日 9:00~17:30

⑤「自動車用表面処理鋼板の溶接性」

座 長 斎藤 亨 (新日鉄)

副座長 森戸 延行 (川鉄)

講演件数-10, 9 月 26 日 13:00~17:20

⑥「チタン材料の高強度化、高靱性化技術」

座 長 鈴木 洋夫 (新日鉄)

副座長 芦田 喜郎 (神鋼)

講演件数-6, 9 月 25 日 9:00~14:50

講演件数-7, 9 月 26 日 9:00~11:55



第 120 回講演大会書籍販売所 (東北大学教養部にて)

懇親会

懇親会は 9 月 25 日午後 6 時よりホテル仙台プラザ 3 階「松島」の間で日本金属学会と合同で開催された。大森康男東北大学教授司会により、須藤 一実行委員



懇親会風景 (ホテル仙台プラザ)

長、山本全作日本金属学会会長、森田善一郎本学会会長ならびに尾坂芳夫東北大学工学部長の挨拶の後、今井勇之進金属博物館長・東北大学名誉教授の乾杯で始められた。参加者は最近では最も多い 450 名にのぼり、東北の名酒を片手に懇談がなされた。

ジュニアパーティー

ジュニアパーティーは 9 月 26 日午後 5 時 30 分より東北大学教養部生協食堂で開催された。参加者は 180 名にのぼり、井口泰孝東北大学教授の挨拶の後、相馬胤和東京大学名誉教授に樽酒の鏡開きをお願いし懇談が始められた。

支部長会議

この会議は、本部と支部との連携、支部の活性化を目的として、今春から春秋の講演大会会期中に各 1 回開催する定例会議となった。

今回の会議は東北大学川内記念講堂控室において、森田会長以下 14 名にて熱心な意見交換がなされたが、その要点は次のとおりである。

①各支部の報告により事業運営上の努力が互いに理解できたが、特に会員数の減少と物価の変動による財源については共通の課題であった。

②活性化の面からは、支部講演会、見学会等は単一支部の事業としても、他支部所属会員にも参加出席できるよう配慮すべきである。

③講演大会の発表数が増加し、会場確保が困難になっているが、金属学会との同時開催を大前提としたい。対応策の一つとしては、両会の相談は当然のこととして、会期 3 日は互いに変えず、開始日を一日ずらすことを考えてはどうか。

④本部からの報告とお願いとして、④-1、事務局組織を 9 月 1 日付けにて改め、支部の窓口として、支部運営に関する事項は総務室、支部事業に関する事項は編集・業務室と明確にした。今後支部からの本部に対する意見に責任をもって適切に対応できる体制となった。④-2、会誌「鉄と鋼」の会告に各支部の事業予定の案内、予算決算等関連事項の報告等を掲載することとした。これにより支部の印刷費・発送経費等が軽減され、一方、他支部所属会員の事業への参加出席も可能となり活性化される。④-3、支部補助金については、金属学会との整合性をはかる必要があることから、連絡会の話題とすること

とした。また算出基礎は正会員数となっていることでもあり、会員増強については各支部にご協力願うことになった。④-4、本会は金属学会と異なり、現在は関東支部が存在しない。今後とも現状でよいかどうか、次回の課題としてお願いした。

鉄鋼・金属連絡会

平成 2 年 9 月 26 日 (水) 12:00 から 13:00 まで東北大学教養部 A 棟 206 号室で開催された。鉄鋼協会からは南雲編集委員長ほか 6 名、金属学会からは須藤実行委員長ほか 8 名により堀金属学会大会委員長司会で開催された。

議事は次のとおりであった。

(1)平成 3 年春季講演大会

東京大学工学部、法学部 4 月 2 日(火)~4 日(木)

(2)平成 3 年秋季講演大会

広島大学東千田キャンパス 10 月 1 日(火)~3 日(木)

(3)平成 4 年春季講演大会

千葉工業大学に正式依頼する。

(4)平成 4 年秋季講演大会

富山大学五福キャンパスで開催(北陸支部理事会で決定)。

(5)その他、支部活動の活性化と講演大会の開催方法を検討中であること、また、春季大会の開催地として仙台にも定期的に開催できないかとの話が上がった。

平成 2 年度秋季研究問題懇談会

1. 第 24 回製錬グループ懇談会

9 月 27 日午後 6 時から、秋保温泉の「佐勘」で責任者の岩瀬、日野両助教授以下 37 名が参加した。今回は日本 IBM(株)東京研究所材料物性研究部マネージャー高山新司氏に「企業における研究者の人事考課」と題する話題を提供していただき、分野の異なる方も含めて、夜遅くまで意見交換が行われた。

2. 第 22 回材料グループ懇談会

9 月 25 日午後 6 時から仙台弥生会館で責任者の友田助教授以下 20 名が参加した。今回は宇宙科学研究所教授大蔵明光氏に「複合材料：最近の展開と将来性」と題する話題を提供していただき、話題に関する質疑応答を参加者全員の自己紹介も交えて行い、閉会後もロビーで 10 時過ぎまで先生を囲んで話がはずんだ。